

第4回教育再生懇談会  
議事録

内閣官房教育再生懇談会担当室

## 第4回教育再生懇談会議事録

日 時 平成20年5月26日(月) 17:30~18:00

場 所 総理官邸大会議室

### 議 事 次 第

1. 開 会
2. 「これまでの審議のまとめ」(案)について
3. 閉 会

安西座長 それでは、ただいまから第4回の教育再生懇談会を開催させていただきます。委員の皆様御多忙のところ御出席ありがとうございます。

それでは、早速議事に入らせていただきます。3月25日を皮切りに議論を重ねてまいりましたけれども、先日の合宿審議での委員の皆様からの御意見を踏まえまして、これまでの審議のまとめをとりまとめさせていただければと存じます。

それでは、山谷補佐官から案の御説明をいただけますでしょうか。

山谷総理大臣補佐官 ありがとうございます。5月17日の合宿審議でこれまでの審議のまとめ案の修正について座長に御一任をいただきました。その後、2度にわたりまして委員の皆様には修正案を御送付し御意見を伺い、座長の御了解をいただいたものを本日提出させていただいております。事前に委員の皆様にはお送りしておりますので個別には御説明いたしません。合宿審議での御意見、その後いただきました御意見についてはできる限り反映させていただきます。委員の皆様には短時間でのとりまとめに御協力いただきまして本当にありがとうございました。

なお、教育再生会議報告のフォローアップにつきましては教育振興基本計画の内容と密接に関係することから、これを取り出しまして皆様方の御意見を踏まえまして、20日に緊急提言として座長より発表していただいたところでございます。

以上でございます。よろしく申し上げます。

安西座長 ありがとうございました。

お手元のこれまでの審議のまとめ(案)につきましては前回の合宿審議の場で私のほうに御一任をいただいております。委員の皆様からも御意見を伺いました上で修文をさせていただいたところであります。この案をもって皆様に御了承をいただければと思いますけれども、よろしゅうございましょうか。

(一同、異議無し)

安西座長 ありがとうございます。それでは、御承認いただいたこととさせていただきます。

それでは、ここで総理が御入室されます。その前にカメラ撮りのためにプレス入室いたしますので、少しお待ちいただければと思います。

(プレス入室)

(福田内閣総理大臣入室)

安西座長 それでは、総理、お忙しいところお越しくございましたので、私のほうからこれまでの審議のまとめの概要をまず簡単に御説明をさせていただければと思います。

今回の第一次報告は3月の第1回会合から合宿審議を含めてこれまでに検討してまいりました6つの項目からなっております。

1番目として、子供を有害情報から守る。特に携帯電話につきまして保護者や関係者の理解を進めて、小中学生は必要がない限り持つことがないように関係者が協力をしていきたい。小中学生が持つ場合でも機能限定の機種が利用されるように携帯事業者の協力も

含めた関係者の協力を訴えております。

2番目として、若い保護者の子育てを応援していきたい。若い保護者が安心して子育てができますように、幼児教育の無償化の実現、また縦割りを排した認定こども園の早期普及を提言しております。

3番目として、「留学生30万人計画」に国家戦略として取り組んでいきたい。国家戦略としての取り組みとして、特に東南アジア、アフリカ、中東等を増やすといったグランドデザインの作成、また質の高い留学生を受け入れるために重点大学への重点的支援。特に私立大学への重点的な支援。それから、就職支援の充実も提言をしております。

そして、日本留学を海外にアピールするための拠点体制の整備、日本版ブリティッシュ・カウンシルといいたまいますか、それから受け入れ環境の整備、そして英語教育におきまして日本から海外に行く留学生を増やすことですね。短期も含めまして高校生、大学生を含めて、高校生10万人、大学生6万人等というふうになっておりますけれども、提言をさせていただきます。

4番目として、英語教育を抜本的に見直すべきだ。小・中・高・大学の達成目標を立てて、すべての段階で英語教育の強化を図りたい。特に小学校を含めて、中・高の英語教育の見直し、英語教科書の見直し。それから、小学校3年からのモデル校、小学校の専任教員や外国人等の指導者確保をはかりながら、学習指導要領の見直しの検討の開始についても提言をさせていただきます。

5番目として、実践的な環境教育を展開する。環境団体と連携した仕組みをつくって、また実践的な環境教育の展開について提言をいたしております。

最後の6番目として、学校の耐震化を早急に進める。これも大切なことで、特に四川大地震も踏まえまして、学校施設を早急に耐震化することを提言させていただきます。

以上の6つの項目、概略を申し上げましたけれども、これまでの審議のまとめをつくらせていただきました。第一次報告というところでございますけれども、福田総理にお渡しさせていただければというふうに思います。

その前に総理から何か、御挨拶を。

福田内閣総理大臣 それでは、お礼方々御挨拶申し上げます。3月の第1回会合以来、委員の先生方には大変熱心に御審議いただきましてありがとうございました。今日とりまとめ、ただいま安西座長から概要のお話をいただきましたけれども、いずれも大事な課題だということに心得ておるところでございます。

中でも先般の合宿審議では、留学生の生の声を聞くというようなことで、大変私にとっても有意義な会でした。例えば私もそう思ったんですが、携帯電話について大変今話題になっておるところでございますので、いいタイミングで御議論いただいたと。その中でもやはり親がしっかり判断しなきゃいけないし、社会がどう取り組むかというようなことなんでございますけれども、ここのところはもう少し具体的にどうするか、どうしたらいいかということ議論していただきたいなというような感じがいたします。

また、「留学生30万人計画」は、今12万人ですから18万人増やすということでありませうけれども、これは18万人増やすというのは簡単なようでなかなか大変だと思います。特に受入れの仕方によってこれが有意義になるかそうでないかということもありますので、この辺も相当戦略的な取り組みが必要だというふうに思います。

また、英語教育のお話もございました。先週の合宿で御議論いただきましたけれども、これも相当な覚悟をもって取り組まないとうまくいかないというような感じがいたしました。英語教育の教科書一つとっても、やはり日本の教科書はちょっと何か内容が乏しいなという感じがします。何も英語の教科書だけでない、他の教科書も、他の国に比べて随分軽いなというような感じがいたしておりますけれども、委員の皆さん方もそういう思いをされていらっしゃるのではないかと思いますので、これについてもどの辺までやったらいいのかという具体的なことを御議論いただくと大変ありがたいなというふうに思っております。

いずれにしても、今回のとりまとめ、これを施策として活用するというようにするために、引き続き御議論いただくことも随分あるだろうというふうに思いますので、どうか今後ともよろしくお願いを申し上げて御挨拶にさせていただきます。

安西座長 総理、ありがとうございます。是非よろしくお願いを申し上げます。

それでは、この第一次報告、これまでの審議のまとめを渡させていただきます。どうぞよろしくお願いをいたします。

(安西座長より福田内閣総理大臣へ「これまでの審議のまとめ 第一次報告」を手交)

(拍手)

(プレス退室)

安西座長 ありがとうございます。

福田総理、改めてよろしくお願いを申し上げます。

それでは、町村官房長官、また渡海文部科学大臣から何か是非コメントいただければと思います。

町村官房長官 先日の合宿、どうも本当にありがとうございました。更に深夜に至るまで議論を重ねたものでございました。その成果を今日こういう形でまとめていただきましてありがとうございます。

英語教育の到達目標が今回改訂された学習指導要領に定められ、それに基づいて諸々動き出そうとしているんですが、動き出す前に改定するというのは多分余り例がないことかもしれませんが、それを急いで改定をしないと、動き出した後ではなかなか何年も変えられないということになってしまいますので。渡海大臣には無理を承知で、動き出す前の学習指導要領を、急遽朝令暮改のそしりを省みず、やはり良いものは早く変えるという精神でやっていただけないだろうか。この点が一つ。

あと、「留学生30万人計画」を具体化するために、詰めた議論が必要であります。また留学生に日本に来てもらうと同時に、日本から留学生を送り出す話も、個人に任せればい

いという問題なのかどうなのか、もう少し考えて詰めた議論もやはりやっていく必要があるんだろうと、こう思ったりもしておりますので、また今後様々な御議論をいただければと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

安西座長 ありがとうございます。

渡海文部科学大臣 ありがとうございます。また、緊急提言をいただきましたが、教育振興基本計画は、皆様にも御案内のとおり、現在、政府内の調整に入らせていただいております。日本の国は資源が限られた国であります。そのことを考えますと、私は今まで科学技術をやってまいりましたが、科学技術も支えるのは人でございまして、そういった意味で人材という唯一の資源を未来にどのように活用していくかというテーマが教育であるとの主張をさせていただいております。最終的には私の決断で、教育に対する公財政支出についてはGDP5%を目指すことを、当省案に入れておりますが、これは、国力に応じた投資を行うということが一つの我々の主張でございます。OECDの数字を使わせていただいております。子供の数が減っているなどの議論はありますけれども、日本は教育というものに政策を、投資を、また資源を注いでいくんだというこのメッセージを出したいというのが我々の思いでございます。

また、それぞれの学習レベルにおいて、特に幼児教育の無償化、これについては認定こども園の制度など、いろいろな制度との問題もございまして、子供は小さいころに投資をした方が効果が大きいという、ノーベル賞を受賞したアメリカの社会経済学者の研究もございまして、これは大変おもしろい研究でございまして、そういった世界の潮流も勘案して無償化を目指そうと考えております。小中学校レベルでも、それから高等教育においても世界トップでないと我が国はグローバルな社会というものの中で勝ち残れないというメッセージを出させていただいたつもりでございます。

具体的には様々な問題がございまして、その中で留学生30万人計画や、それから世界から人に来てもらえるような環境や拠点を作らなくてはいけないというような課題。そして奨学金の制度、これは総理からも様々な対応が必要との言葉をいただいております。日本の奨学金の制度というのは、もう少しいろいろなものを充実していかなければいけない。それから公・私立学校の差というものをもっと埋めていかなければいけない、こういうこともこの教育振興基本計画案の中に入れておるわけでございます。我々としてはそういったことをしっかりと主張しながら、できるだけ早期にこの教育振興基本計画をまとめていきたいと思っております。

我々はこの緊急提言を非常にありがたく頂戴いたしました。是非皆様方におかれても、この提言の趣旨を踏まえて、国民世論に対して教育の重要性を今後ともお広めいただければありがたいと思っております。

なお、学校耐震化の話題がございました。これについては総理からも強い御懸念が示されておまして、我々としては国庫補助率を3分の2に上げればもっとスムーズに進むだろうという結論を出しまして、明日ぐらいから与野党間の協議が始まります。補助率を3

分の2に上げて耐震化をより促進していくということで。文部科学省のスタッフが全国行脚しましたから、かなり促進をされる部分もあると思いますが、3分の2に上げるわけですから、これは費用を出さないと促進はされないという、逆に言うと逆マジックみたいなところもありますので、状況を見ながらより促進をしていく。

偉そうなことを言いますが、学校施設の耐震化は、国家の責任であろうと思えます。地方にも協力はしていただかないといけないですが、国としてはしっかりとした政策をとりたいと考えております。

少し長くなりましたが、いずれにいたしましても今日いただきましたこの第一次報告、我々も重く受け止めて頑張りたいと思っております。

英語の問題については、私は早くからやらなきゃいけないというのは持論ですが、現場の状況を考えますとこれは上手くやらなきゃいけないと思います。また、例えば5,000校のモデル校をつくるとしましても、簡単には人間は集まらない。優れた英語の先生は、現状でも不足している。要するに日本の英語教育の問題として、実は教員が非常に不足しているということもございませう。JETプログラムで外国からネイティブの教師を呼んでいるものの、これでもまだまだ足りないという状況でございませう。

町村官房長官がおっしゃいましたように、ここで止まったら先に進まないということにならないよう、私たちも少し時間をいただいて検討させていただきたいと思っております。

教育振興基本計画については、ここから1週間ぐらいが勝負でございませうから、我々としては我々の主張をしていきたいと思っておりますので、皆様方の今後より一層のお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

安西座長 ありがとうございます。

総理からも大変すばらしい前向きな御発言をいただきまして、私は総理がとても国の将来をお考えになって、教育、また国際関係に取り組んでおられるというふうに思います。教育振興基本計画の緊急提言も出ささせていただき、渡させていただきました。それから、この第一次報告につきましても総理の下でやはり推進を図っていくのが我々の役割だというふうに思っております。

特にやはり今町村官房長官言われましたように、英語教育だけではないと思っておりますけれども、到達目標といいますか、目線を高くして教育政策をつくっていただっていくというのが非常に大事だというふうに思います。また、渡海大臣がやはり現場のほうもとおっしゃるのはごもっともで、これはやはりこの懇談会といたしましてもそのことまで考慮して実行性のある方向を、しかも目線の高い方策を、知恵を絞って打ち出していくべきだというふうに思います。

では、委員の方から何か特にございませうか。

池田委員 先週のことですけれども、全国町村教育長会の50周年記念大会に招かれ講演させていただきました。その際、英語教育について同会の会長より、都市部は社

会総がかり、地域ぐるみで取り組めばある程度何とかなるだろうが、地方においては様々な面で都市部とは同じようにはいかず、難しい問題が多々あるので、是非とも国に目配りいただき、格差が出ないようにお願いしたいという強い要請がございました。これは町村教育長の総意と思われるので、ここでそのことをお伝えさせていただきます。

安西座長 地域の問題もとても大事だと思いますので、総理にも頭にとどめておいていただければと私も思います。

どうもありがとうございました。

- 了 -